

平成 28 年 12 月月例記者会見

質疑応答概要

1. 記者会見内容について

〔生駒市民吹奏楽団結成記念式典〕

記者 当初の予定では、ママさんブラスは、いこまブラスを発展的に新たに形成すると聞いていましたが、別団体になったのですか？

市担当 応募が予想以上で 94 名になり、1 つでは運営できないので、いこまブラスを発展的に市民吹奏楽団の中に、そして新規で応募された 31 名をファミリアの吹奏楽団として、2 チームに分けました。

記者 練習はいつから始めていましたか？

市担当 10 月からです。

記者 事前告知はしない方がいいですか。

市長 整理して今日中に連絡します。

記者 指揮者は公募ではなく、市から声を掛けたのですか？

市長 福島先生は「0 才から楽しめるファミリーコンサート」でご縁があって。三宅先生は福島先生が声を掛けてくださいました。

〔「ごみの減量化に向けて」アンケート集計結果〕

記者 県内で、現在有料化されているところがありますか？

市長 たくさんあります。

記者 28 年の数字はありますか？

市担当 燃えるごみで 11 月までの収集量を比較すると、28 年度は 27 年度より 0.9%増で、横ばい状態です。

記者 25 年度から 26 年度で増えた理由は？

市担当 有料化が始まる前の駆け込みです。

記者 ごみの施策は、来年度は現行のままですか？

市長 有料化の制度は、今の時点で特に何かを変える想定はしていません。課題については、市民会議を立ち上げていますので、そこで議論していただきます。特に、スーパーや家庭での食品ロスがかなり問題になっていますが、検討や実践は市民会議を主体として取り組んでもらう予定です。

〔生駒市長杯ビブリオバトル市内中学生大会〕

記者 中学生大会ですか？

市長 バトラーは中学生です。去年も、びっくりするような凄いプレゼンでした。是非取材をお願いします

記者 市長杯ということは、市長が何か独自の強い思い入れのある物を渡すのですか？

市長 何か考えておきます。

〔成人式〕

記者 ハーモニカの子の名前は？前に話題になった方ですね？

市担当 竹内海人君です。

記者 生駒市在住ですか？出身となっていますが。

市担当 生駒市在住です。

2. その他

〔高齢者交通費助成〕

記者 クーポン券にする中で選択肢が3つ、A段階的に年齢を引き上げる、B一律に7000円、C所得制限を設ける、とありますが、どれかを必ず実施するのですか？それとも、クーポン化はするけど、これらは先送りする可能性もあるのですか？

市長 ABCのどれかは確実にやるつもりではいます。いろんな意見はありましたが、今の予算規模ぐらいを想定しながら続けていきたいと思っています。より意味のあるクーポン券という形で制度が組めれば、生駒市独自の制度ではありますが、続けていく意味はあると思います。議会での審議も含めて、最終的に決めたいと思います。

記者 去年の段階では、一律をやめるという思いがあったと思いますが、今回は所得制限を入れる場合もありますが基本は全部一律であるかと。そのあたりは1年前の思いと何がどう変わったのですか？

市長 コストもちろんありますが、移動支援だけでちゃんと効果が届いている人がどのくらいいるのかが1番大きな問題だったので、今回クーポン券という形をとったことで、より意味がある人に意味がある使い方をしてもらう制度にはなると思います。これから高齢化が進むのにたいへんという意見もあるので、なかなか100点はもらえない苦しい立場ではありますが、去年から何か考え方を大きく転換したつもりはありません。より効果的な使い方であれば、予算としてはこのぐらい毎年計上するのは意味があると思っています。

記者 選択肢の中で、どれが一番有力ですか？

市長 まだ決まっていません。

記者 今後、いつまでに決めていくのですか？

市長 これから個別にいただく意見や、議会の懇談会で出てくる意見を踏まえ、1月中旬くらいに固めます。

記者 タウンミーティングなどを通じて、住民の理解を得られた手ごたえはありました？また、ABC案以外に、住民からの意見を取り入れて新たな案を考えるという可能性はありますか？

市長 去年のタウンミーティングと比べても、非常に建設的な意見が多かったです。100%の人に100点の内容で理解、満足を得ることは有り得ないと思っていますが、ワークショップやティーミーティングも含めた一連の流れとしての合意形成のプロセスも含めて考えれば、かなりの理解を得られたと思います。ABC以外の案は、今のところ想定はしていませんが、タウンミーティングでいただいた意見は、プラスアルファの部分として考えていきたいと思っています。

〔北陸新幹線〕

記者 北陸新幹線の京都・新大阪間は、まだ決まっておらず、当初、原案では、京阪奈辺りを通る南側ルートが有力のひとつでしたが、知事が記者会見などで、奈良を通らないほうがよい旨の発言をしました。京阪奈と言えば生駒も絡んできますが、このあたりの知事に対する意見や、生駒市長としての北陸新幹線ルートに対する意見はありますか？

市長 急に 11 月ぐらいから 大きく動きが出てきた印象ですが、心配していた京都・新大阪間は、3 月まで検討を続けるという報道もあり、もう少し時間をかけて行おうと思っています。京都までは、経済的な効果や負担など、いろいろ検討されてきましたが、京都・新大阪間は負担や効果など、なかなか議論されてない中で、拙速に決めるのではなく、ここはしっかりと時間をかけて決めていただきたいと思っています。手続き論では、与党 P T が中心と聞いていますが、各市町村の思いをできれば直接聞いてほしいと思っています。都道府県の意見だけを聞いて、地域の意見とされていますが、地方創生の時代でもあり各市町村が頑張っている時代なので、きちんと市町村の意見を聞く機会を作ってほしいと思っています。また、内容面では、北回りよりも、リダンダンシーや脆弱性を回避するという意味では効果があると思うので、南回りをしっかり検討して欲しいと思います。もう一点は、リニアのルート・駅位置と北陸新幹線のルート・駅位置とのシナジー効果、連携効果がきちんと出るように考えて欲しいと、これは私として非常に強く申し上げたい。ルートと駅の整合性が取れないと、国民にとってももったいないし、地域の自治体にとってももったいないことになってしまいます。リニアのルート・駅との整合性をしっかりと考えた結論になってほしいと思います。

記者 知事の発言は比較的唐突だったと思いますが、地元市のひとつである生駒市長には事前に話がありましたか？

市長 特になく、私も報道で知りました。

記者 県内の自治体として共有意見を持とう、というところは求めないのですか？

市長 与党 P T が直接そういうかたちを取ってもらえるならば、生駒市としても話をさせてもらいます。

記者 与党 P T に直接という気持ちも分かりますが、国の仕組みとして、県として意見をまとめてくれというほうが、P T にとってもわかりやすいのではないのでしょうか。京都府もそのようにしているのではないですか？

市長 意向を聞かれていない中で、生駒市の思い伝えることにも議論があると思うので、県か与党 P T から問い合わせがあれば、思いはきっちりと伝えたいと思っています。

記者 市として与党 P T 案に対する検討は行ったのですか？

市長 突っ込んだ形では行っていません。与党 P T 案もそれが意図する細かいところまでは資料だけでは分からないので。

記者 北陸新幹線の時も北陸 3 県は頑張っていました。九州新幹線も同じです。新幹線は我田引鉄という言葉もあるとおり、どの自治体もほしいところです。奈良は新幹線も空港もない珍しい県です。新幹線が奈良を通りそうだなというときに、政治家の立場として、自分のところに駅をという強い思い、強い行動力があってもよいのでは

市長 負担と効果がどのくらいあるのかという話と、高山第 2 工区をどのようにしていくか、検証と

分析を行って、それを踏まえて発信する必要があるれば発信したいと思いますが、今まだ議論や分析が出来ていません。

記者 シナジー効果を考えるということは、知事が言うように、県を一部通過するだけでお金を出すというのは意味がないという切り口ではなく、仮に、通るだけでも、駅が奈良よりに作られるのであれば、生駒にとは言わないまでも、仮に奈良をかすめるだけでも、駅が奈良に近い位置に場所にあり、将来できるリニアの駅との連携がうまくいくようであれば、仮に一部を通るだけでもが生駒にとって効果があるので、それならば、検討の余地があるという理解でよろしいですか。

市長 そのとおりです。前提条件もいろいろありますが、そういうことを含めて効果と負担の問題になると考えています。

〔いじめ防止基本方針〕

記者 いじめ防止基本方針ですが、市長としてはどういった期待を寄せていますか？

市長 もちろん、ゼロを目指して取り組み効果が出るものであってほしいと思います。すでに各学校ではいじめ防止の方針を作っていて対応していますが、市としてもしっかりと位置付けて応援することに、この方針が役立てばよいかと思っています。

記者 生駒市内のいじめ状況の統計はありますか？

市長 あります。教育委員会でオープンできるものがあります。ちなみに、生駒市は細かいものまで全部カウントしているので、件数は多くなっています。1年前と比べても10倍とか、相当な数が急に増えているように見えるかもしれません。しかし、それはむしろ望ましいことだと思っています。本当にちょっとした受け手の子が嫌だとかいじめだと思ったことから、全部いじめとカウントします。なお、現在、重大事案は認知していません。件数が多いことで、逆にしっかりとひとつひとつ対応しているので、重大事案にはつながっていないということです。

〔カジノ法案〕

記者 カジノ法案が通りましたが、興味はありますか？

市長 今のところ、全く考えていません。

〔2年目を振り返って〕

記者 今年最後です。2年目の年ですが、どんな1年でしたか？

市長 いろいろとたいへんお世話になり、ありがとうございました。心の痛む事件もありました。課題もまだまだありますが、市民協創、目に見える形での市民との連携や市民の取り組みが、どんどん広がっている手応えはとても感じています。そこはこの1年で飛躍的に変わったのではないかと思います。また、高山第二工区、市立病院といった大きな課題があるので、それをしっかりと来年やっていくこと。市役所の中では、これまではトップダウンでやってきたところもありますが、非常に職員も頑張っている者がたくさん出てきているので、ボトムアップがどんどん出てくるような、そういう組織になればと思います。持論ですが、トップダウンだけが強い自治体は、一定の効果はありますが、なかなかそれ以上に伸びていかないと思います。職員のボトムアップと市民との協働が、市長のトップダウンと上手くよい形でバランスが取れている自治体は、私が見る限りほとんどありません。そういう自治体が

地方創生のある意味、究極の姿だと思っています。生駒市はそれを本気で目指していきたいと思っています。

記者 前の市長の色々な懸案がたいへんだった1年だったと思いますが。

市長 確かに相当苦労したところではありますが、助かっている部分もあります。当然あとを引き継ぐ場合、根本的な考え方自体がおかしいと思うところは直していくべきですが、まだ今の時点でそれはなく、むしろ個々の課題をしっかりと対応していくことだと思っています。苦労はしていますが、そこはしっかりやって、よい形にしていくのが来年の課題だと思っています。